

四谷の

# 千枚田だより



第195号

を食い荒らした憎きイノシシの捕獲供養に「シシ汁や焼肉

## 収穫感謝祭開催のお知らせ

十二月八日(日)、保存会は恒例となった収穫感謝祭くみんなどで感動！さあ〜つかまい！感謝を込めて、餅つきを〜を棚田っ娘や地域の皆さん、ふるさと指導員の協賛、協力を仰ぎ、開催します。

当日は午前十時開催、午後二時終演までに六白の餅(あんこ、草餅など)を振る舞う。また、田んぼの稲

みんなで感動！  
さあ〜、つかまい！  
感謝を込めて、餅つきを！



令和元年12月8日(日曜日)  
午前10時から午後2時まで  
四谷の千枚田「ふれあい広場」

鞍掛山麓千枚田保存会  
共催：棚田っ娘&地域の皆さん  
：ふるさと指導員

など豊富なメニューを考えている。

余興に「川西 忍のゆかいな仲間」の生演奏、歌あり、踊りありのふれあいコンサートとの協力出演も楽しみである。

資金ゼロでの開催、皆さんのご理解があればこの催しは成り立ちます。多く無くても結構です。ご協力いただければ、とっても嬉しいです。

## 三遠南信サミット

既報(194号)

十月三十日、第二十七回三遠南信サミット in 南信州(参加者約五百人)が開かれた。全体会ではリニア中央新幹線を見据えた大都市圏「スーパークー・メカリージョン構想」と三遠南信圏域の関係性についてパネル討論後、「防災」を主題に情報を共有し、広域災害に備えた連携方策を議論した。



午前の部には三遠南信住民セッションが開かれ、同セッションの趣旨説明に続き①文化芸能の可能性 大脇 聡氏(NPO てほ〜)②伝統芸能の継承 関 京子氏(元天竜村柚子生産組合)③獣害と暮らし 小山舜二(鞍掛山麓千枚田保存会)の三つのテーマにそって議論された。(舜)は「獣害と暮らし」について野生イノシシは平成十二年頃から、ニホンジカは茶臼山をコロニー(生物集団)としていたものが南下、平成十七年頃から私たちの地域に、さらに南下、アツと云う間に旧鳳来町地内に拡大、農作物の被害は無論、家屋、交通事故までに波及し、ひとの暮らしまでに及んでいる。

拡大の要因として野生イノシシとブタの混血「イノブタ」の話。ニホンジカの自然条件の平均寿命は約四歳とされているが、餌の条件がよければ十五才以上とも云われ、拡大の要因は、たぶんこれにあたる。等々の話に参加者は相当な興味を示した。サミット終了後の懇親会を終え、夜道を帰路、我が家の近く「松下」地内で尾っぽがクルリと曲がったブタそっくりの大きなイノシシと鉢合わせした。このことを地区民に伝え、見たら連絡をお願いした。

## 横浜ゴム糞出荷

十一月一日、横浜ゴム新城工場へ稲糞を出荷した。

同社は平成十七年開催された全国棚田(千枚田)サミットの翌年から新入社員研修を実施。すでに十四年になる。同社はCO2削減に「千年の杜」を計画、ドングリなど広葉樹を育苗し、工場敷地内に植栽したり、獣害対策の一環とした広葉樹林の造成に苗木を希望に応じ、提供したりしている。その、環境に配慮した活動の基となる広葉樹の種苗の覆いに環境に恵まれて育った千枚田の稲糞を購入して頂くなど、保存会、横浜ゴムの両者の絆は深い。



## ふるさとウォーキング

十一月十日、連谷公民館は恒例のふるさとウォーキングを行った。

昨年までは、地域史家である丸山敦志さんを講師に地域の生立ちや古道、石仏探訪など知識豊かな解説で地域の人々に知見を広めてきた。敦志さんの後釜に(舜)と云うことで、ウォーキングコース(かしゃげ峠)ふれあい広場(大林界限)の時代と変遷マップを製作、参加者に配布した。

・今から三百七十一年前(慶安元年)の大代の年貢は五十七石であった記録がある。(この当時は一石一両と云われた。一石は玄米百五十kg)この記録から、それ以前に田んぼが作られていただろうし、たぶん小野村の衆も与良木に移る前で、くびれかああって田んぼを作っていたと想像も逞しくなる。また、この頃は信州中馬街道として大代―小代―塩津道が改修され、三州馬稼ぎが盛んに往来した。

・「おちやあ」は「落合」であり、海老商人と南信州の商人が落ち合った場所で「遠望」は海老商人が遠くに望む南アルプスの雪の状況を判断、吉田(豊橋)から商品を仕入れた。この地には地名に「おちやあ」のような面白い呼び名がある。「かしゃげ」は重い荷物を担ぎあげたこ

とからか、そうそう、今は大向(おおむかい)と呼ばれているが、俺んとうの若い時分は「おおむけ」と云っていた。地元では「ほうぼうの峠」が地図上では「ほのぼの峠」になっていたりしている。

他に不動沢のワサビ栽培の経緯、水産試験場の果たした役割、千五百年前は海設楽海であり貝の化石がみられる、その火山活動の転石で棚田が積まれた。などとロマンを説いた。そんな、こんなを古老から授かった耳学問を混えて説明、コースマップには「標高」を記してみた。我が家や何所何処の高さが分かって面白いやあくと喜ばれた。

## イベントへの参加

令和二年一月十一日、十二日、名古屋国際会議場で開催される未来へつなぐ「国連生物多様性の十年」せいかりレーキックオフイベント(あいち・なごや生物多様性EXPO)が開催される。そのうち、交流イベントに四谷の千枚田の景観、環境保全などの取り組みのブース出展をする。

国連が定めた「国際生物多様性年」である2010年、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の愛知県名古屋市への招致に大きく貢献、また、コマーシャル、大会中は名古屋の市電やバスに乗っても、

歩いて千枚田の写真が、取り分け「アサヒスーパードライ」のポスターが人目を引き、「四谷の千枚田」がクローズアップされた思い出が大きい。

「国連生物多様性の十年」、最終年の大きなイベントに招かれたことに、環境を重んじる「四谷の千枚田」として大きな誇りを持って参加したい。

## 蓑作り

十一月二十五日、昔々、連谷地区に嫁に来た御婦人様方が連谷交流館に集い、方瀬中屋の原田八重子さんを先生に背中蓑作りを教わった。



行 令和元年十二月一日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二